

みなさん、こんにちは。この春から、社会福祉士として勤務している宮村尚典（みやむらなおふみ）と申します。

初めて「元気にな～れ」の記事を書くことになりましたので、私の専門分野である社会福祉についてお話ししたいと思います。

私は苫小牧市の出身です。苫小牧市は人口が17万人程度ですが、バスや電車といった公共交通機関で行ける場所が限定されていたので移動手段といえば車でした。

道幅が狭い道路では、信号機がない横断歩道も多く、歩行者は車が横断歩道の手前で停止するのを見計らって横断歩道を渡っていました。

ある日、私は歩行者用信号機のない横断歩道で、杖をついた高齢者が向こう側に渡ろうとして、車が止まるのを待っている姿を見かけました。

しかし、車は横断歩道手前の一時停止で止まることはなく、ただ通り過ぎてゆくばかりです。

その高齢者は長い時間立ち往生し、車がいなくなったときにやっと渡ることが出来ました。

みなさんはこのような経験をされたことはありませんか？

この方にとって、通り過ぎる車のドライバーが少し止まって渡らせてくれたとしたら、どれほど助かったでしょうか？

日常生活で自分が他人や家族に対して行っている何気ない行いのなかには、高齢者や障がい者の方にとって、大変な思いをするものがあります。

さらに、こうしたことは普通の人からすれば目につきにくく、気づきにくいということも、周囲に理解されない問題に繋がっています。

しかし、今若い人でも自分が70歳、80歳になったり、障がいを負ってしまったとき、思いやりのない行為が溢れている社会であったらどうでしょう。

きっとそれらを受ける側として、よく見えて、よく気付くようになると思います。

でもその時になって気付くなんて、それは寂しいことですね。

ですからこうした社会にならないため、お互いを尊重し、相手の立場・気持ちになって考え行動することは、助け合いのある社会を作っていくことになるのです。

よりよいまちと社会を作っていくために、今までよりほんの少し『思いやり』を意識してみませんか？

きっと自分も周りも、地域全体が住みやすい気持ちのいい社会になるはずです！

